

菅野圭介

Keisuke Sugano

1909 - 1963

菅野圭介は、本名を奎介といい、生涯を通じて圭介、圭哉、恵介と名を改めています。

渡欧してフランドランに師事し、帰国後に独立展に出品された作品は、小島善三郎や中川紀元らに絶賛され、画壇に彗星のように登場しました。デッサンを取らず、色面と色面の間に生まれる線を尊重し、混色を避けた美しい半抽象の風景は、大きな反響を浴び、三岸節子も影響を受けています。

晩年は病気もあって人気が凋落し、徐々に忘れられていきましたが、平成2(1990)年に、美術研究藝林で「浪漫の画家 菅野圭介展」を開催したのが契機となり、平成7(1995)年に平塚市美術館、平成17(2005)年に東御市梅野記念絵画館、平成22(2010)年に横須賀市美術館、一宮市三岸節子記念美術館、ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)、東御市梅野記念絵画館を巡回した展覧会が開催され、再評価されるようになりました。



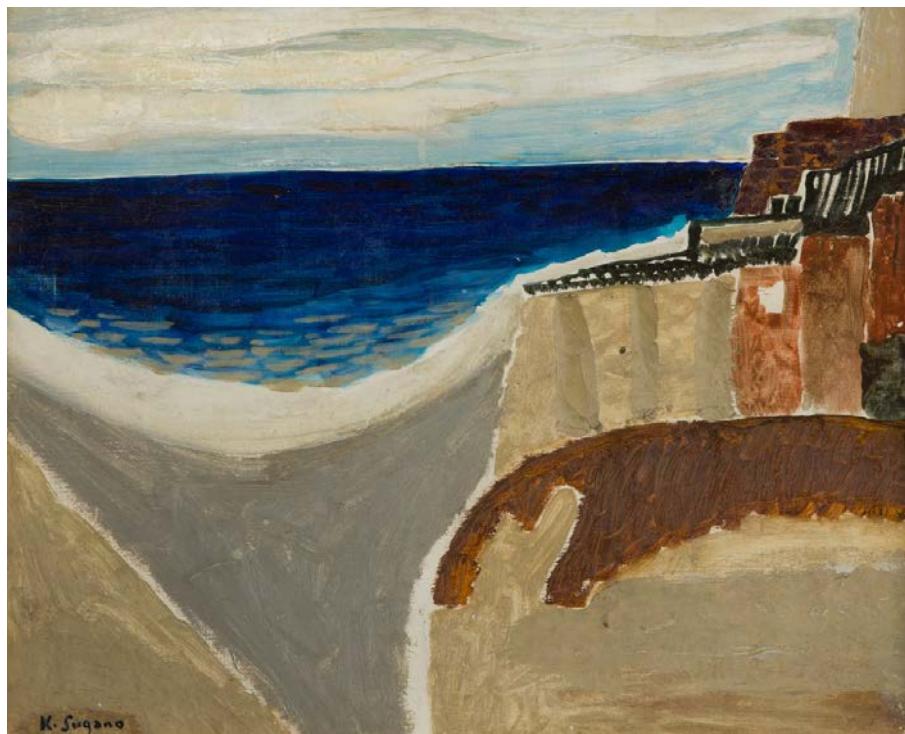
ワルソー風景 1955 以降 油彩・キャンバス



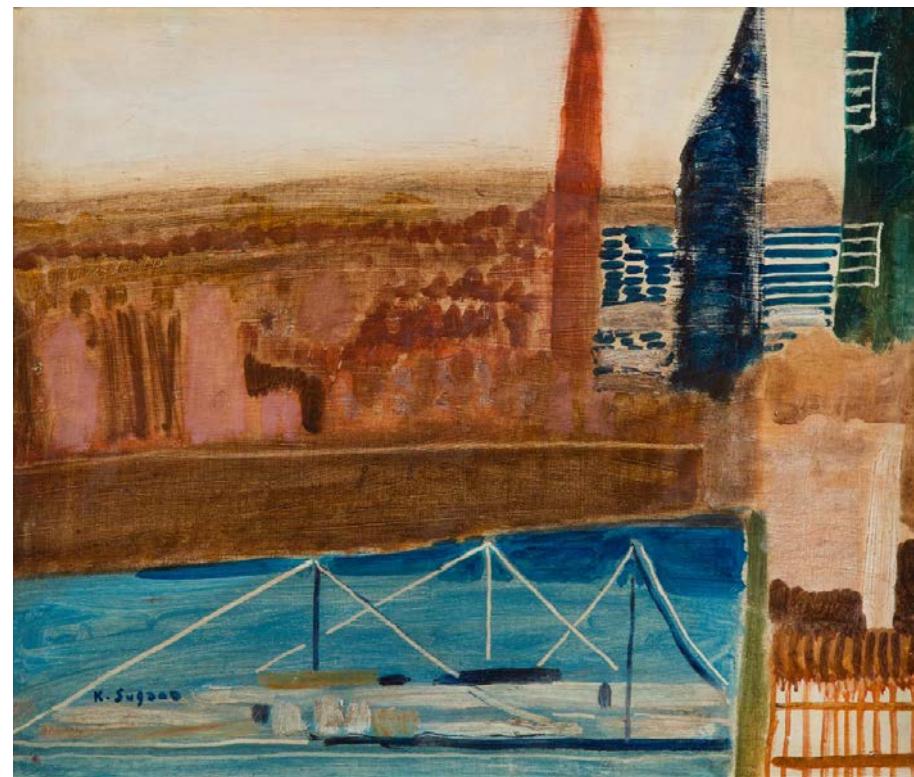
風景（海） 1951-52 油彩・キャンバス



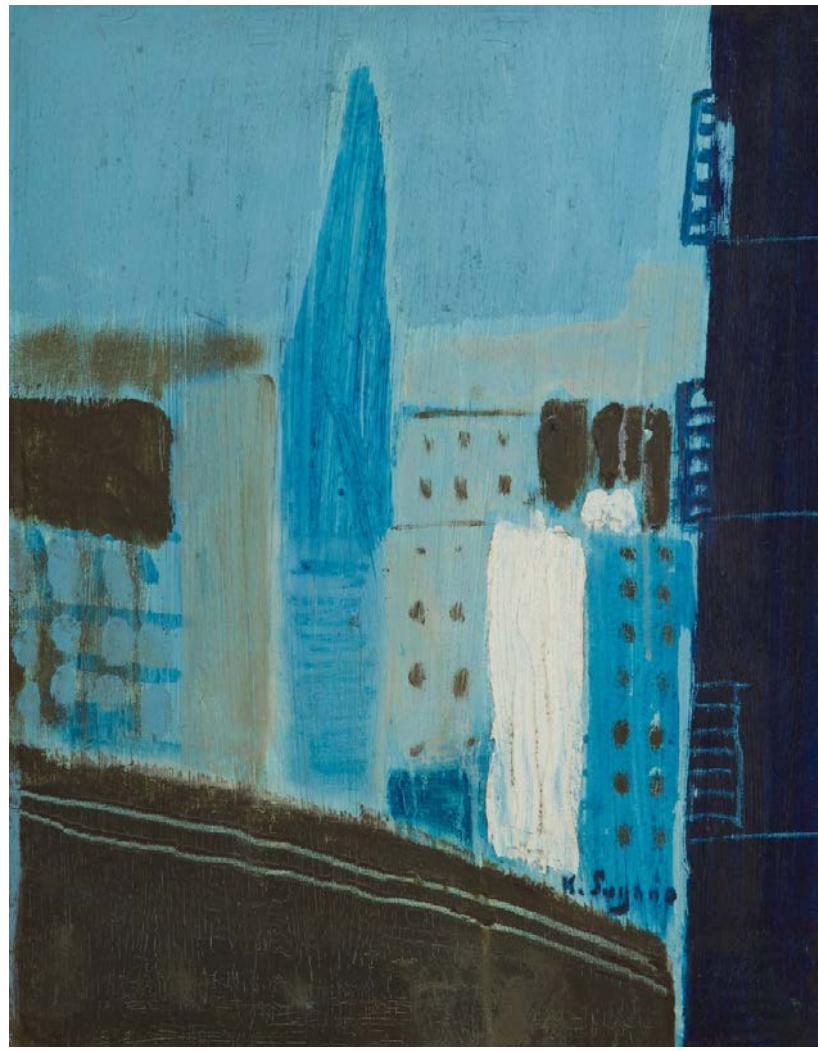
ブレーメン朝 1951-52 油彩・キャンバス



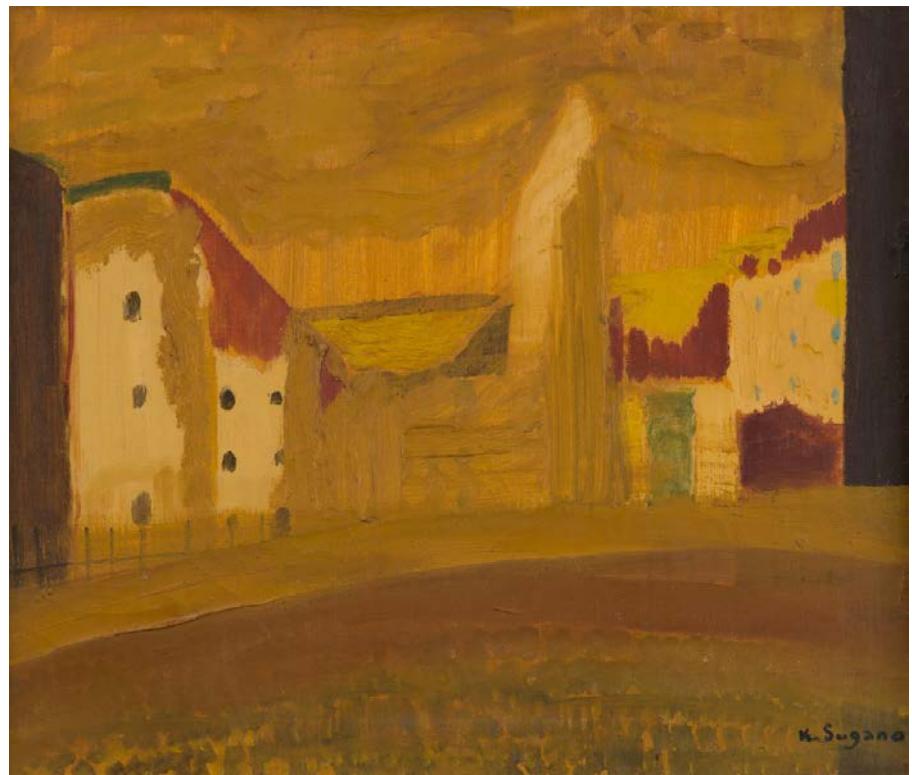
ビルバオ 1953 油彩・キャンバス



キール港 1953 油彩・キャンバス



ハイデルベルク風景 1952 油彩・キャンバス



ミュンヘン 1955 油彩・キャンバス



静物 1958 油彩・キャンバス



静物 1941 油彩・キャンバス



山湖 1951-52 油彩・キャンバス



風景 1937頃 油彩・板



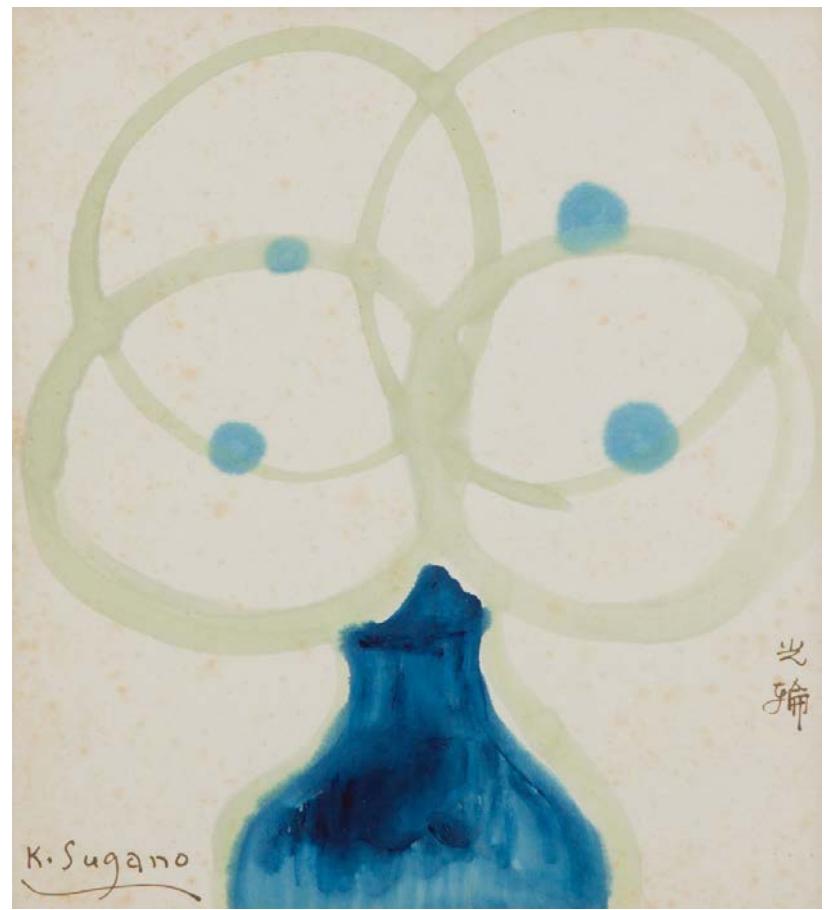
草上静物 1950 油彩・キャンバス



静物 油彩・ボード



風景 水彩・色紙



光輪 水彩・色紙



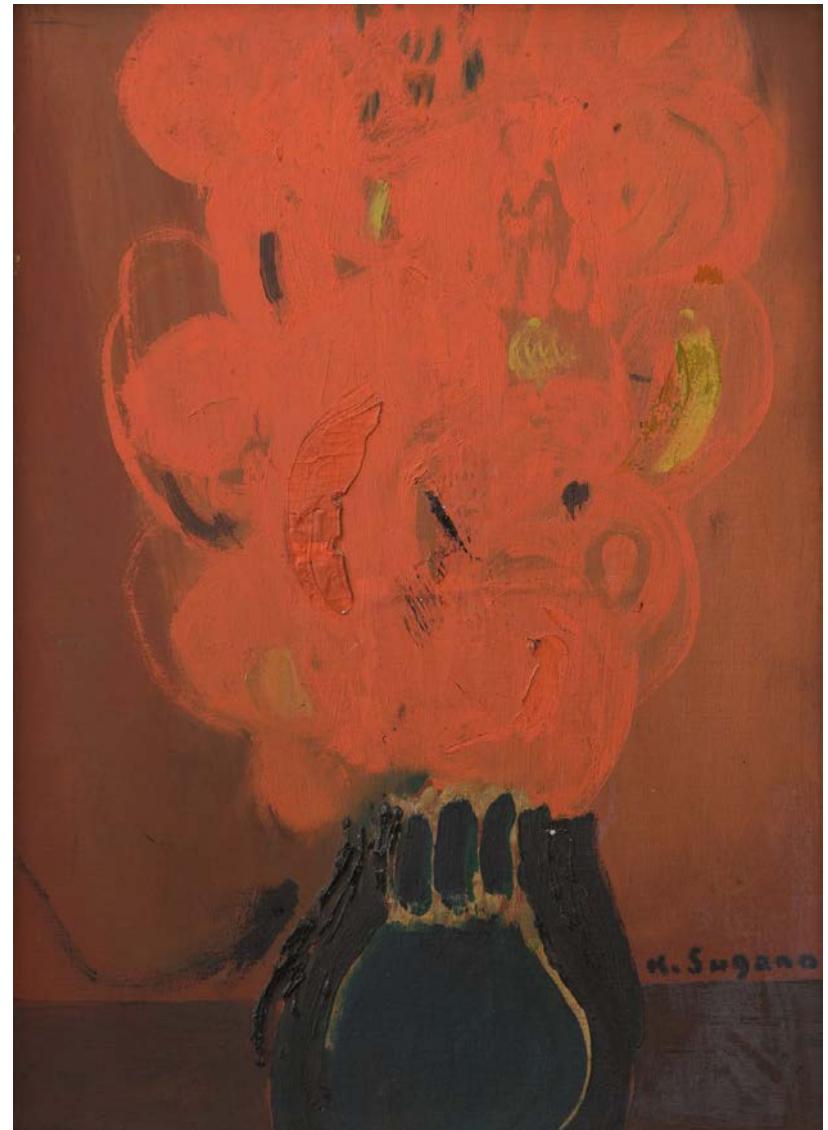
海 油彩・キャンバス



山湖 油彩・キャンバス



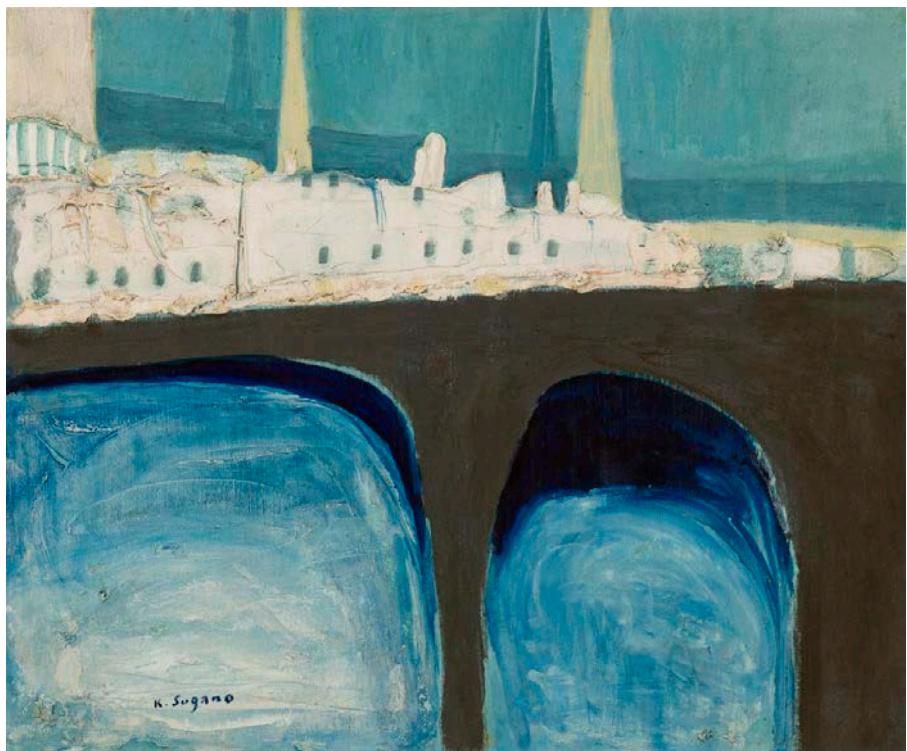
モスクワ風景 油彩・キャンバス



花（赤い花） 油彩・板



海 油彩・キャンバス



哲学の橋（ハイデルベルク） 油彩・キャンバス